

今季の冬に備えてワクチン接種 ワクチンの選択肢

2026年7月14日

副会長 川上一恵

新型コロナウイルス感染症

2020年 1 月28日：感染症法の「指定感染症」になる

3 月13日：新型インフルエンザ等対策特別措置法改正

12月 9 日：臨時の予防接種の対象疾病に指定される

～2023年 5 月：計 8 回の流行の波

2023年 5 月 8 日：感染症法の五類感染症に位置付け

新型コロナワクチンの効果

- 発症予防
- 重症化（入院）予防効果
- 既感染者であっても再感染することは稀ではなく、
ワクチン接種により追加の発症予防効果が得られる

新型コロナウイルスワクチン接種対象者

＝ B類疾病の予防接種（定期予防接種）対象者

1. 65歳以上の者
2. 60歳以上65歳未満の者であって、心臓、腎臓又は呼吸器の機能に自己の身の辺の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する者及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者

新型コロナウイルスの種類

- mRNAワクチン

SARS-CoV2スパイク遺伝子のmRNAを脂質ナノ粒子の中に包含したmRNAワクチン

- ウイルスベクターワクチン

ヒトに対して抗原性を示さないウイルスをベクターとしてSARS-CoV2のスパイク遺伝子を組み込んだ遺伝子組み換えウイルスベクターワクチン

- 不活化ワクチン

新型コロナウイルスワクチンの選択肢

- mRNAワクチン

SARS-CoV2スパイク遺伝子のmRNAを脂質ナノ粒子の中に包含したmRNAワクチン

- ・従来型のmRNAワクチン（コミナティ、ダイチロナ）
- ・従来型を改変したmRNAワクチン（エムネクススパイク）
- ・自己増幅型（レプリコン）mRNAワクチン（コスタイベ）

- 不活化組換えタンパクワクチン（ヌバキソビッド）

インフルエンザワクチン接種対象者

生後 6 か月以上のすべての人が接種対象

定期予防接種としての取り扱い

（B類疾病の予防接種（定期予防接種）対象者）

1. 65歳以上の者
2. 60歳以上65歳未満の者であって、心臓、腎臓又は呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する者及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者

インフルエンザワクチンの選択肢

- 高用量インフルエンザHAワクチン（筋注）（エフルエルダ）
対象者：60歳以上（定期接種での使用は75歳以上と規定。）
特徴：有効成分が従来の不活化HAワクチンの4倍
- 不活化インフルエンザHAワクチン（皮下注）
対象者：生後6か月以上
- 生ワクチン（経鼻）（フルミスト）
対象者：2歳以上19歳未満
特徴：弱毒生ワクチン
抗体産生、細胞性免疫、粘膜抗体産生が得られる

ま と め

- ヘルスリテラシーの向上～正しく知って、正しく恐れる～
感染対策の方法を知る
ワクチン接種→感染予防 もしくは 重症にならない
- ワクチン選択
年齢毎の免疫力を考慮する
不安の軽減